

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	霊園・霊堂維持管理事業			シート番号	019-072
担当部署名	建設	局	公園緑地	部	泉ヶ丘公園事務所 課 評価責任者(課長名) 三田

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	2	誰もが幸せで、暮らしの質の高いまちを実現します	後期実施計画の位置付け
			施策	6	良好な居住環境の形成	無
	2	事業開始年度	昭和 37 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	・都市公園法 ・墓地、埋葬等に関する法律 ・堺市霊園条例 ・堺市立霊堂条例 ・堺市墓地等の経営の許可等に関する条例			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	堺市の公園墓地として昭和37年から造成工事を始め、霊園は市民から使用者を募集して昭和38年から使用を開始し、霊堂については平成7年度より使用を開始している。 ・屋外墓地区画数 …… (15,336区画) ・屋内型霊堂納骨壇基数 …… (2,663基)				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input checked="" type="checkbox"/> 出先機関 (泉ヶ丘公園事務所) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	霊園・霊堂の利用者や利用者を対象			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	先祖を祭祀するための施設として、霊園・霊堂を適正に維持管理し、使用者及び利用者に快適な公園墓地の提供を行う。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	・霊園・霊堂使用者の各種申請等手続きの対応 ・空き墓地、納骨壇の新規利用者の募集 ・霊園・霊堂施設等の修繕及び樹木等の維持管理を行うための委託発注 ・霊園内下水管敷設に伴うトイレ改修工事 ・老朽化した電気・水道のインフラ更新工事の計画・実施			
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				
		業務及び工事受注者				

Ⅲ. 投入量

項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算
11 事業費 (a)	千円	344,824	277,775	334,882	262,408	280,614	191,574	230,909
主な事業費内訳								
委託料	千円	120,286	109,370	138,672	119,610	116,174	105,517	139,558
光熱水費	千円	20,032	17,121	19,500	19,078	17,500	18,769	18,000
工事請負費等	千円	170,514	127,982	151,288	110,682	102,521	39,771	42,500
施設修繕料	千円	3,000	7,108	3,000	4,086	5,000	4,567	5,000
財源内訳								
国・府支出金	千円							
受益者負担金(使用料、手数料等)	千円	134,106	130,405	132,441	129,999	131,286	128,851	131,349
市債	千円	115,000	87,800	104,100	71,000	103,900	30,200	35,509
その他(基金繰入金等)	千円	88,109	59,570	82,170	59,744	18,096	15,848	45,100
一般財源	千円	7,609	0	16,171	1,665	27,332	16,675	18,951
12 人件費 (b)	千円	62,400	62,400	62,000	62,000	62,100	62,100	58,000
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	407,224	340,175	396,882	324,408	342,714	253,674	288,909

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	霊園・霊堂維持管理事業	シート番号	019-072
-------	-------------	-------	---------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



[14] 令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15] または [16] に定量的な指標、または定性的な目標を記載

【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

事業の活動実績や成果

令和元年度実績								
活動実績と成果	14	墓地については空き墓地の募集を行い、78人の申し込みを募り、24人の新規墓地使用者を得ることができた。納骨壇については年間を通じて募集を行い、68人の新規納骨壇使用者を得ることができた。						
	15	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		墓地使用数	区画	目標値	15,336	15,336	15,336	15,336
				実績値	14,714	14,557	14,357	
				達成率	96%	95%	94%	
				評価	普通	普通	普通	
	算出方法・設定根拠など	墓地の総区画数における使用数						
	16	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		納骨壇使用数	基	目標値	2,663	2,663	2,663	2,663
				実績値	1,874	1,881	1,901	
				達成率	70%	71%	71%	
				評価	少し悪い	少し悪い	少し悪い	
	算出方法・設定根拠など	納骨壇の設置基数における使用数						

事業の効率性

区分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
17	①	霊園・霊堂使用区画数	区画(基)	16,588	16,438	16,258
	②	上記①にかかる年間経費	千円	340,175	324,408	253,674
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	20,507	19,735	15,603
	備考(算出についての説明等)		霊園・霊堂の1区画(基)あたりの年間経費を使用数で算出			
区分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
18	①					
	②	上記①にかかる年間経費	千円			
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位			
	備考(算出についての説明等)					

業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
	近年、墓地のニーズの多様化により、永代供養できる施設や合葬墓のような様々な形態の墓地の供給がある中、本市の永年使用できる墓地の利用者数は減少傾向にある。しかしながら、毎年実施している空き墓地募集においては抽選となる区画もあり、永年使用できる墓地の需要は継続してあるものと考えられる。同様に納骨壇の新規利用者は昨年度より増加していることから事業の有効性は高いと考える。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありましたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありましたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありましたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	霊園・霊堂維持管理事業	シート番号	019-072
-------	-------------	-------	---------

≪V. 点検≫

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。 ⇒ 確認

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 霊園・霊堂は先祖を祭祀している場所であり、永年に渡る管理が必要であるため。
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 霊園・霊堂の事業の休止(延期)は、適正な維持管理を行えないため快適に墓参することが困難になる。また、使用者及び利用者が先祖の祭祀を行えなくなることに繋がる。
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由 現在、直営管理を行っているが、令和2年度に発注の「墓地のあり方検討業務」の中で、墓地ニーズの多様化への対応、管理方法等の見直しを検討しており、指定管理者等、民間活力を導入することにより、コストを縮減できる可能性がある。
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input type="checkbox"/> 改善する必要がない <input checked="" type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由 霊園・霊堂の運営は、様々な社会状況を鑑みながら市民や民間の活動変容に合わせた運営を行っている。
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は■、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は□) ① <input checked="" type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 () 関連事業名 () ④ <input type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他()	理由・説明 合葬墓に対する要望など、多様化する墓地ニーズに応じた施設の整備及び民間活力を生かした管理運営を行うことで、より効果的・効率的な運営につながる可能性がある。
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input checked="" type="checkbox"/> 令和4年度以降	
		所見 霊園約15,000人、霊堂約1,900人という利用者があり市民にとって必要な施設である。また、霊園94%、霊堂71%という利用率があり、空き墓地の募集及び納骨壇の新規の使用においても利用者を募れていることから、持続的な霊園・霊堂の運営が求められていると考える。ただし、近年、墓地のニーズの多様化などに伴い、墓地の返還数が増加傾向であることから、今年度は霊園の区画を再編し、需要の高い2.6㎡の区画の募集を増やす。併せて、多様化する墓地ニーズへの対応、民間活力を生かした管理・運営についての検討を行い、より一層、効果的で効率的な運営を図ろうと考える。		